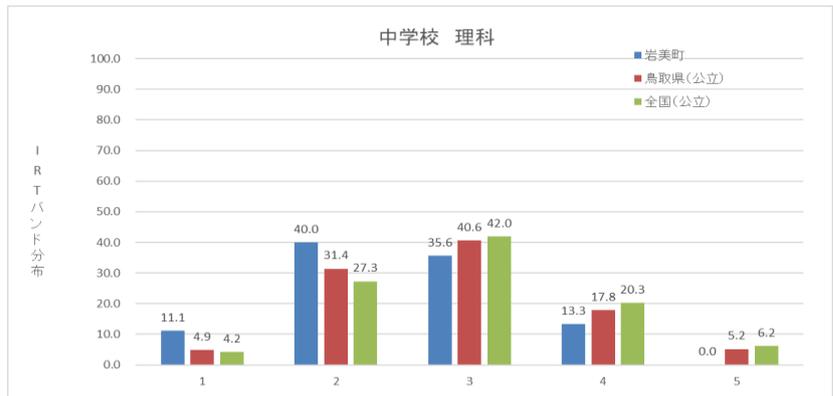
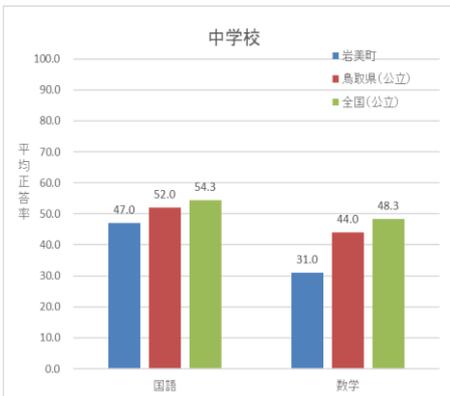
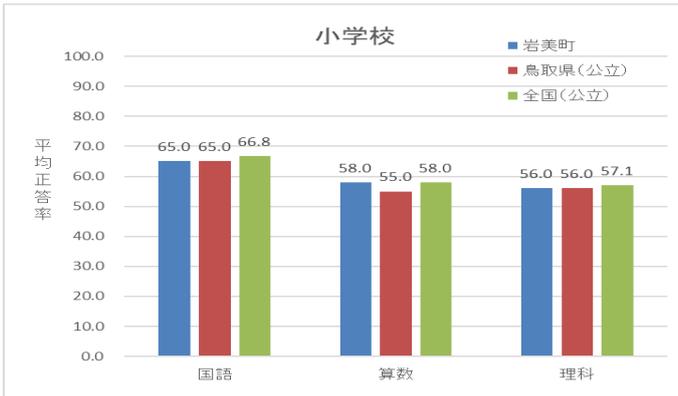


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

令和7年9月
岩美町教育委員会

小学校6年生は「国語」「算数」「理科」、中学校3年生は「国語」「数学」「理科」について、「知識」と「活用」に関する内容を一体化した問題の学力調査、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施しました。その結果の概要をお知らせいたします。

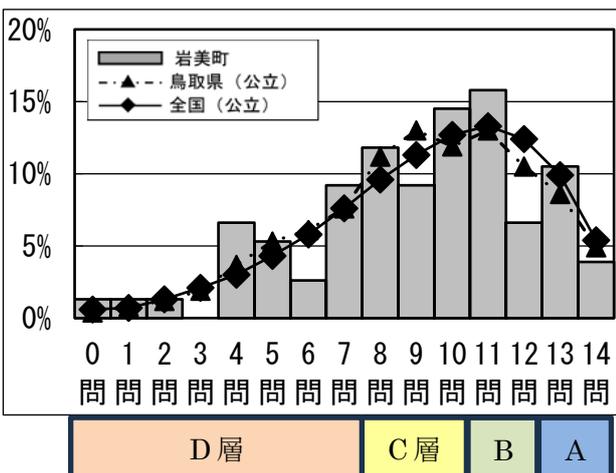
☆教科に関する調査結果の概要



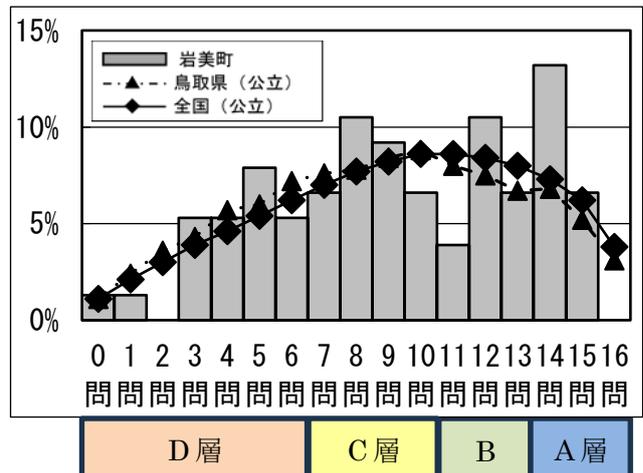
※中学校理科については、他と調査形式が異なる（小学校の国語、算数、理科及び、中学校の国語、数学は正答率に焦点を当てたCTT：Classical Test Theoryに基づいた調査であるが、中学校の理科のみ各問題の難易度や識別度をモデル化し能力を数値に変換するIRT：Item Latent Theoryに基づく調査となっている）ため、平均正答率ではなくIRTバンド分布（3を基準とし、1が最も低く、5が最も高い）で表しています。

正答数分布グラフ【小学校】

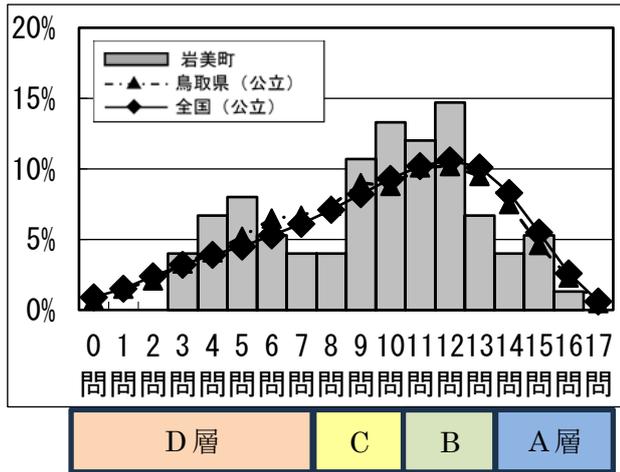
<国語>



<算数>



<理科>



【小学校】

<国語> 国語の平均正答率は県と同じで、全国を下回っています。

◎書き表し方を工夫したり、字数制限等の条件に合わせて考えをまとめて書いたりする「記述式」の分類区分において、平均正答率が県を4.9ポイント、全国を3.7ポイント上回っていました。

▲学習指導要領の内容の知識及び技能区分の平均正答率が低く、特に情報と情報との関係付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を問われている「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られました。実際に図などを使って情報を整理したり、友達と話し合いながら考えをまとめたりしていく活動を通して、多様な情報を活用する力を身に付けることが大切です。

<算数> 算数の平均正答率は県を上回っており、全国と同じです。

◎図形の意味や性質、角の大きさや面積を問う、学習指導要領の領域「図形」において、県・全国平均を上回っていました。

▲学習指導要領の領域「数と計算」「測定」の分類区分において、他者の考えや助言をもとにして解答する問題に課題が見られました。普段から友だちと自分との考えを比較したり、友だちがどう考えたかを推察したりしながら自身の考えを深めていくことが大切です。

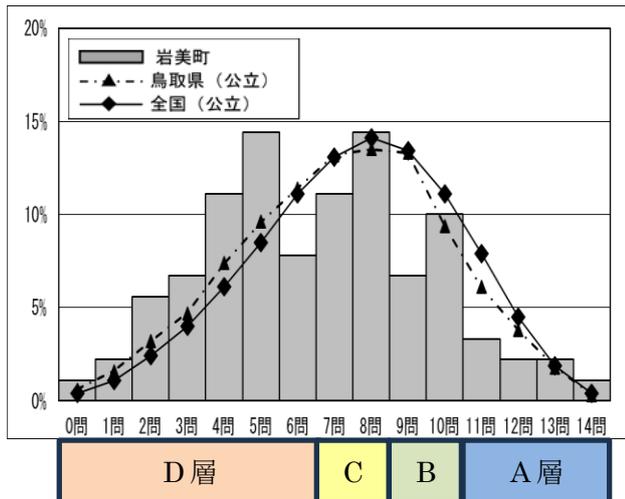
<理科> 理科の平均正答率は県と同じで、全国を下回っています。

◎結論を導いた理由や、新たな問題を見だし表現する「記述式」の分類区分において、県・全国平均を上回っていました。

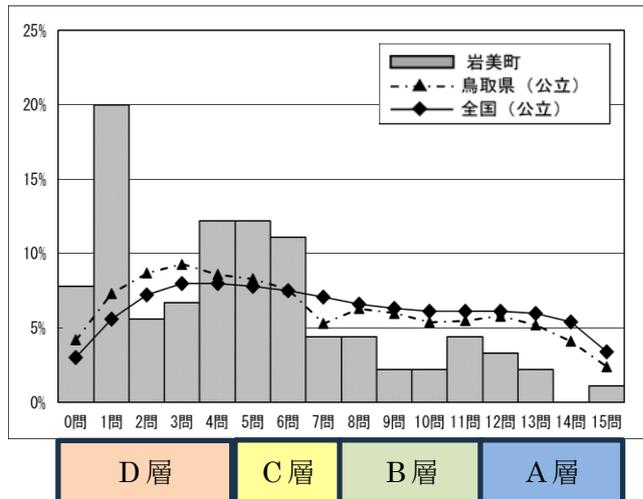
▲電気を通すものや、電流回路の仕組み等について問われている、学習指導要領の区分・領域の「エネルギー」を柱とする領域において特に課題が見られました。実際に実験を通して電気の性質について学ぶとともに、日常生活での活用の仕方、され方についても考え、電気エネルギーについての理解を深めていくことが大切です。

正答数分布グラフ【中学校】

<国語>

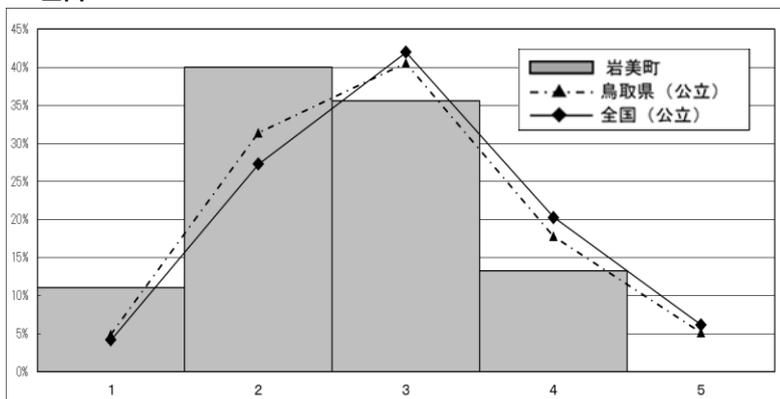


<数学>



IRT バンド分布

<理科>



【中学校】

<国語>国語の平均正答率は県・全国を下回っています。

◎文脈に即して感じを正しく使うことができるかどうかを問う問題において、平均正答率が県を 5.5 ポイント、全国を 0.4 ポイント上回っていました。

▲文章の構成や表現方法の効果について根拠を明確にしながら解答する学習指導要領の内容「読むこと」の区分において課題が見られました。読書活動に励み、様々な文学作品の効果的な表現方法に普段から慣れ親しんでいくことが必要です。

<数学>数学の平均正答率は県・全国を下回っています。

▲「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の分類すべてにおいて県・全国の平均正答率を下回っています。「問題形式」の「記述式」の区分においては、県を16.3ポイント、全国を20.3ポイント下回っています。無答率も他の問題と比べて高かったです。普段から数学の学習において、数学的な言葉を用いながら自分の考えを友達や先生に伝え、説明力を高めていくことが大切です。

<理科>理科の IRT バンド分布を見ると、3、4、5の割合が県・全国と比べ低く課題が見られます。

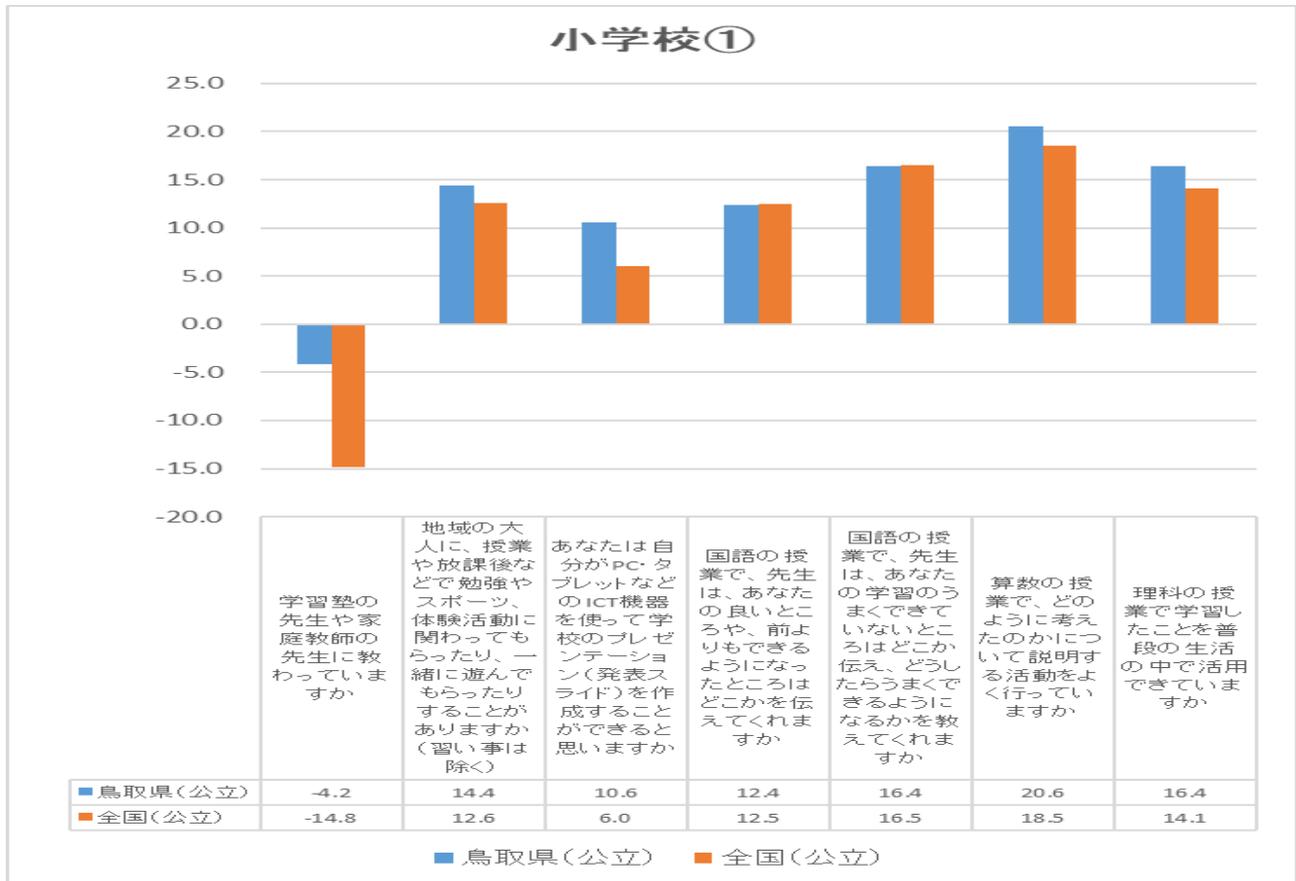
◎電熱線を利用し電気回路についての問題の正答率が県・国の平均正答率を上回っています。

▲IRTバンド分布では、県・国と比べて上位層である4、5の層の割合が低く、逆に下位層である2、1の層の割合が高くなっていました。「問題形式」の「記述式」の区分においては、県を2.4ポイント、全国を5.4ポイント下回っており、数学と同じく無答率も他の問題と比べて高かったです。理科の学習において、実験結果や、結果から予想される他事象についての考察をわかりやすく友だちや先生に伝える等し、学びを確かな学力として身に付けていくことが必要です。

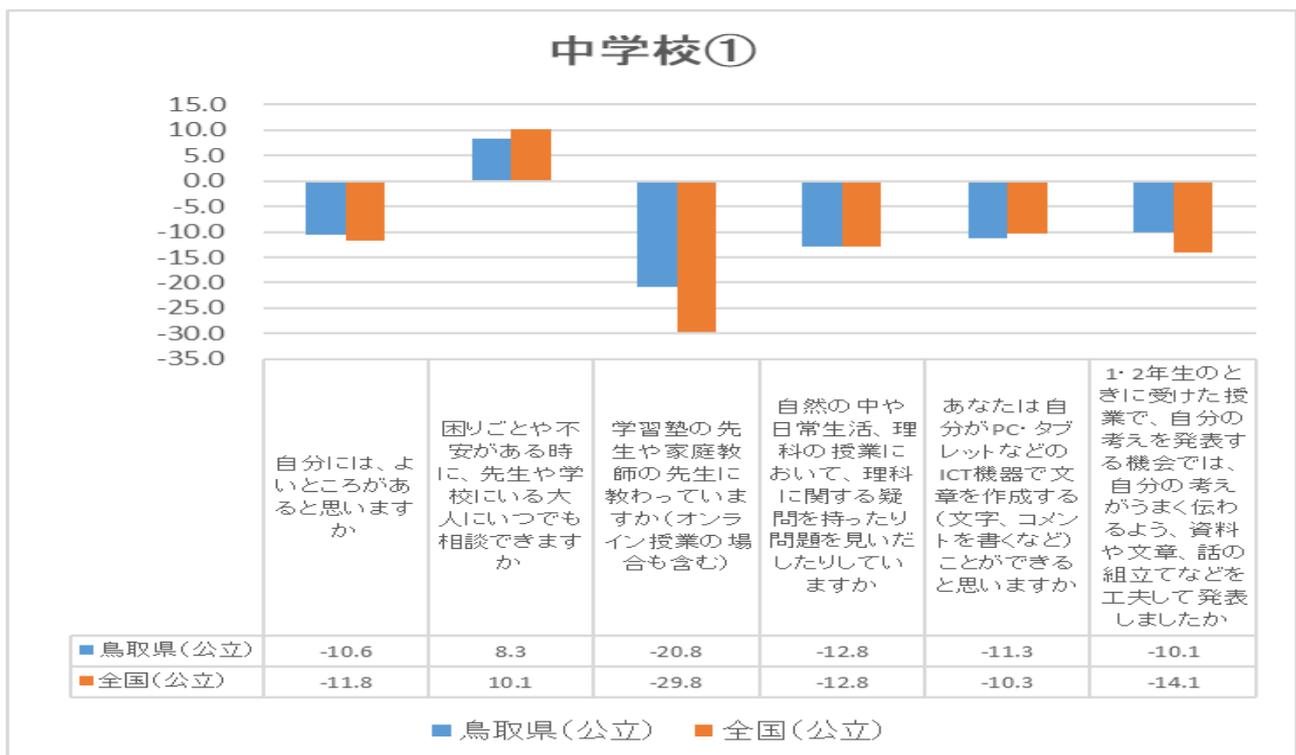
☆生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要☆

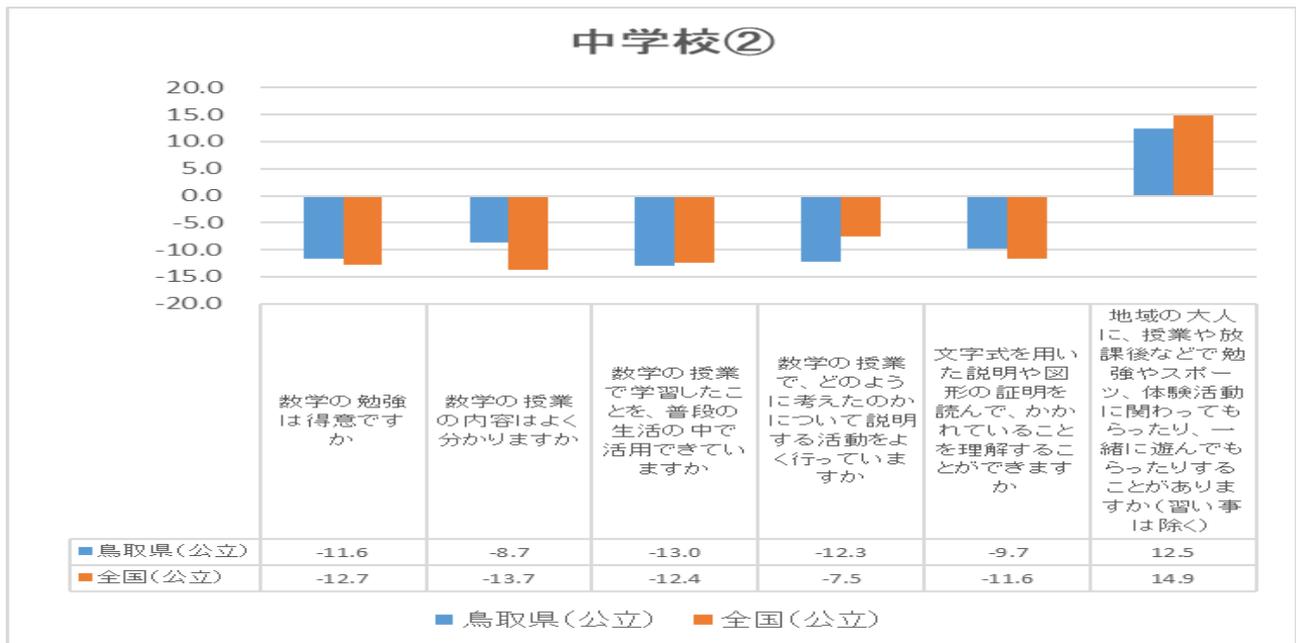
※質問項目のうち、県・全国の回答率と比べて、小学校・中学校とも±10%以上の差があった項目だけ質問順に抽出しました。中央の「0」を基準にして、上側に振れている項目が肯定的回答の割合が高かった項目、下側に振れている項目が肯定的回答の割合が低かった項目となります。

【小学校】 ※小学校は、全 86 項目中、49 項目で肯定的な評価の割合が全国平均を上回っています。



【中学校】 ※中学校は、全 76 項目中、24 項目で肯定的な評価の割合が全国平均を上回っています。





◎小学校・中学校ともに、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある(習い事は除く)」の項目、中学校で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の項目に肯定的に回答する児童生徒の割合が全国を上回っていました。日々の先生方の児童・生徒への関わりや、地域教材を活用した学習機会の設定、CSの活用、自主的なボランティア活動の奨励等がそのような結果に結びついていると考えます。

○小学校では「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」等、授業内容について問われている項目に肯定的に回答する児童の割合が県・全国を上回っていました。

▲中学校においては、数学に関する全質問項目において、県や全国を下回っており、数学の正答率とも深く関連していると考えます。また、「1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか」等の項目にも課題が見られました。

<今後の方策として>

- 1 「〇〇ができると思いますか」等、自己効力感に関する質問項目に肯定的に答えている児童生徒ほど正答率が高い傾向(やや強い相関関係)がみられました。各教科や質問調査の結果を踏まえ、児童生徒が1時間の授業時間で「できた」・「わかった」を実感することができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、岩美町スクラム教育の強みである、校種を越えた児童生徒、職員同士のつながりを活かしながら授業改善を進めていきます。
- 2 県教育委員会、兵庫教育大学のサポートを受けながら、全国学力・学習状況調査の結果はもちろん、とっとり学力・学習状況調査、i-check、標準学力調査等のデータを総合的に分析し、今後の指導に生かしていきます(Evidence-Based policy making)。個別最適な学びのより一層の充実(ICT機器の活用等)を目指し、児童生徒それぞれの学力(自己効力感、ねばり強さ等の非認知能力含)を育てていきます。
- 3 「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)。「読書は好きですか。」という質問項目に肯定的に答えている児童生徒ほど正答率が高い傾向(やや強い相関関係)がみられました。また、小学校・中学校ともに、県や国の平均時間と比べ家庭での学習時間が少ないこともわかりました。スクラム教育の取組(チャレンジ・ふれあいデー、親子読書等読書活動の推進)と合わせて家庭学習や生活習慣に関するご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。